



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第52号

2011年7月3日

平成23年度年次総会を鶴岡八幡宮で開催

東日本大震災被災社叢の調査と修復事業を実施

設立10年目を迎え、これまでの活動を振り返る

平成23年度総会・研究大会ならびにシンポジウムが、5月29日(日)に、鎌倉市の鶴岡八幡宮直会殿を会場に開催され、会員による研究発表やシンポジウムに多数の会員が参加した。

総会では、上田正昭理事長、奥富清副理事長・大会実行委員長、吉田茂穂・鶴岡八幡宮宮司による挨拶の後、井上満郎理事を議長に選任。正会員総数296名中、委任状を含む153名の出席を得て、5項目からなる議案を審議した結果、今年度の新規事業として提案された「東日本大震災被災社叢調査と復興への取り組み」事業を含め、全ての議案が承認された。

また3月14日に開催された第29回理事会において資格を認定された4人の社叢インストラクターに上田理事長から認定証が、菅沼副理事長から活動時に身につける名札とヘルメットが手渡された。さらに、社叢フォトコンテストの優秀作品の表彰も行われた。

総会に続いて行われた研究発表では、濱野周泰理事(鶴岡八幡宮大銀杏の修復について)、亀井裕幸氏(自然教育園におけるシュロの成長・枯死と他の樹種との関係)に加え、橋本完氏・長谷川泰洋氏・窪山恵美氏が3年間にわたって取り組んだ地球環境基金助成金調査について報告した。

午後からのシンポジウム「社叢学会の10年の歩みと展望」では、まず菌田副理事長がこれまでの「鎮守の森だより」をもとに、定例研究会や要望活動などで10年目を迎える社叢学会の活動を振り返った。続くパネルディスカッションでは、パネリストが、それぞれの経験を披露しながら、社

叢管理の在り方等について議論した。

これに先立つ28日(土)の見学会では、昨年春に倒伏した大銀杏の修復現場を見学した。

被災社叢の修復に向けて 調査とシンポジウムを開催

「東日本大震災被災社叢の調査と修復事業」は、3月の理事会で検討され、実施を総会に提案することになったもの。

いち早く被災地に赴いた糸谷正俊理事・森本幸裕理事などの調査によると、津波で甚大な被害を受けた地域で、奇跡的に塚の木立が残っていたり、避難所に指定された場所が被災し機能しなかった一方で、高台の社叢では多くの人命が守られたなどの事例が確認され、これらを復興と地域コミュニティ再生のシンボルとして守り育てていくことの重要性が指摘された。

社叢調査については、これらを踏まえて、7月～9月に社叢インストラクターを中心としたグループを現地に派遣し、社叢の被災状況を把握、必要に応じて修復計画を立て、場合によっては修復を手掛ける。

さらに、社叢修復の重要性を広く訴えるために、11月に東京でシンポジウムを開催する。これには先ごろ日本国籍の取得で話題となった当学会名誉顧問のドナルド・キーン氏と上田正昭理事長との対談を柱に、社叢調査報告やパネルディスカッションを行う予定。

第7回社叢インストラクター養成セミナー受講者を募集!

9月と11月に関西の社叢で

第31回 中部定例研究会 報告

2011年6月15日
(於：大山田神社)

式内社大山田神社の社叢・ツリークライミング等による管理

話題提供 熊谷 睦男(大山田神社宮司)・原 董(下條村文化財調査委員)
松岡 秀治(飯伊森林組作業班長)
コメンテータ 林 進(社叢学会副理事長・中部支部長)

中日新聞(2010.10)の記事によると、高木の管理を行う空師(そらし)が高齢化で減少する中、長野県飯田市の飯伊(はんい)森林組合の若者がツリークライミング技術を使って、高所作業車も届かない高木の剪定・伐採に取り組んでいるとのこと。長野県神社庁飯伊支部の紹介で、大山田神社でお話を伺うことになった。「大山田神社の森」は昭和62年(1987)に長野県自然100選の一つに選ばれ、南限・北限の植物が約280種類も繁茂している植物学上貴重な場所で、神殿前の御神木杉は樹齢800年余。周囲の樹林が黒い虫の穿孔被害を受けて困っているとの話が事前にあった。

天竜川を介した文化交流

岐阜県東濃地方、愛知県三河山地および長野県南部を含む美濃三河高原の端の下條山脈に、かんば(汗馬・神場)山・極楽山があり、その東麓に山岳信仰の祭祀場としての大山田神社がある。フォッサマグナ(中央構造線)の近くで、活断層が発達して地形が複雑に入り込んでいることから、古代から多様な文化が入って、縄文土器や弥生遺跡が出土する。急峻な石段は富草(とみくさ)逆断層面にあり、気の多いパワースポットになっている。

伊那谷には、信濃国に降り立って信之阿智祝の祖及び秩父国造の祖にもなった思兼神を祀る式内社阿智神社と、南の阿南町に東海地方から流入した式外社早稲田神社を含めて、古代を代表する3神社がある。北境を流れる阿智川の北は諏訪信仰の支配域で、阿智族は諏訪氏と対抗していた。

大山田神社の左右の相殿は、戦国時代初期の永正4年(1507)に、第7代下條家氏が京都から工匠吉村和泉守一門を呼んで造ったもので、和様禅宗様の建物として、古城(ふるしろ)八幡社の2社殿とともに国重要文化財に指定されている。本殿は天保13年(1842)に遠州の大工鈴木氏によって日光東照宮の社殿を模して造られたことが昭和41年(1966)の解体修理で判明している。本殿の大国主命に奉納する獅子舞は三河系の頭を床に置いたまま舞うもので、静岡県森町の山名神社天王祭舞楽で奉納される蛇舞(竜の舞)と似ており、天竜川の上流と下流の深い文化交流を示している。

杉と同様に育林される檜の悲劇

大地を鎮めるために、人々は自然条件と文化的条件が揃って安定した場所に神社を造った。当地は天竜林業と奥三河林業の接点にあり、ミネラル成分も多く樹の成長が早く、板材用の杉を主体に、天竜

川と海路を使って江戸に送っていた。

境内の虫食い材は、杉ではなくて檜の枯れ枝から害虫が侵入して生じている。杉は成長が早くて枯れ枝も早く落ちるが、檜は過密な状態では成長が遅くて枯れ枝が残りやすい。日本の檜林業は新しく、杉と同様に育林する傾向があり、昭和40-50年代に檜が増えて害虫が大量発生した。

枝虫(えだむし)と呼ばれるスギノアカネトラカミキリは、スギ・ヒノキを加害する穿孔虫類で、枯枝に産卵するため、枝打ちを行えば被害を未然に防ぐことができる。

ツリークライミングが社叢を支える

飯伊(はんい)森林組合は、飯田市及び下伊那郡を中心に大阪府とほぼ同じ面積の地域を対象に活動を行っている。近年、長野県内の神社やお寺や工場や民家で、エノキや杉などの巨大支障木に対して、米国のツリークライミング技術を用いて、樹木の剪定・伐採を請け負っている。ジョン・ギヤスライトさんの元で技術を習得し、国内大会で優勝して世界大会に出場した作業員もいる。研究会終了後、阿智村の神坂(みさか)神社に移って、見えない程高い神木杉の枝打ち作業を見学した。

問合せはTel.0265-22-0604へ。

文責：岡村 穰



- 会費をいただきました方には、会員証をお送りしております。お手元に届いていない時、また、一部年度表示が間違っただけのものをお送りしている可能性があります。お手数ですが、事務局までお知らせ下さい。
- 下記の通り、『社叢学研究』10号への投稿募集が始まりました。社叢学会は日本学術会議協力学術研究団体に指定されております。研究者の業績評価にもつながりますので、ぜひ、ご投稿ください。また、論文のみならず、身近な活動などの報告も、お寄せください。
- 南三陸町に会員がお一方、在住しておられましたが、このほどご本人からご無事で避難所にいらっしゃるとい連絡を頂きました。少し安心いたしました。できれば社叢調査の折にお伺いし、お手伝いできることなど、お聞きしたいと考えています。

今年の大会は鎌倉だし、らくしよ～モードで準備に入ろうとしていた矢先！ 震災復興関連事業に、総額6億円(!)の助成金設定のニュースが！
これは頂かねば！ 締め切りはと、ひえ、総会の翌日投函じゃん。きよえ～～！ 「総会準備が！」と喚きまくり、主要部分はI理事が書いて下さることに。やれやれ。とはいえ、金額やら積算根拠やら、他にもぎよおさん埋める所が。。。結局、またまた大荷物を持って(発送する時間がなかったのよ。。。)新幹線から1杯気分の帰宅ラッシュの東海道線で鎌倉に。ひいひい。
雨(台風!)には降られたものの、大過なく(小過はそこそこ?)大会を終えて、懇親会でほっと一息。莫大な金額を申請した助成金が認められれば、、、ちょっとだけワタシにもほしーなーと呟いたらば！ ならば働けと言われる！ 女工哀史かっ！！ 辞めてやるっ！！ こんなとこっ！！
(藤岡 郁)

次回予告【第45回関西定例研究会】

- ◆日 時：2011年7月16日(土) 13:30~15:30
- ◆場 所：ビル葆光6階 大道の間 (中京区室町御池西南角 Tel075-211-4171)
- ◆講 師：森本 幸裕 (京都大学農学部教授)
- ◆テーマ：東日本大震災被災地の社叢の現状と復興について
- ◆コメンタ：渡辺 弘之 (社叢学会理事・京都大学名誉教授)

次回予告【第10回福岡県支部定例研究会】

- ◆日 時：7月29日(金) 11:00~12:30
- ◆場 所：太宰府天満宮宝物殿
- ◆テーマ：神社と社叢の文化
- ◆講 師：園田 稔(社叢学会副理事長・京都大学名誉教授・秩父神社宮司)
- ◆問 合 せ：太宰府天満宮 味酒(みさけ) Tel092-922-8225

掲 示 板

『原稿募集!』

『社叢学研究』第10号への投稿：論文、研究ノート、資料紹介や調査報告(各400字詰原稿用紙40枚以内)と「鎮守の森の活動報告」(右記参照)を募集いたします。
締め切りは、いずれも10月31日(月)必着。

* 書評欄では会員の皆さまの著作を取り上げていきます。出版された方は、ぜひご献本下さい。

「鎮守の森の活動報告」

祭、音楽会、調査などの活動、抱える問題点などを1,200字程度でご報告下さい。
手書きでも結構です。写真やイラストなども、お添え下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL075-212-2973 FAX075-212-2916

URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032 E-Mail shasougakkai@hotmail.com

(当面、このアドレスでお願いいたします)